

2018年全日本カート選手権OK部門第7戦・第8戦 2018年全日本カート選手権FS-125部門東地域第5戦
2018年地方カート選手権FP-3部門東地域第5戦
2018年ジュニアカート選手権FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門東地域第5戦 [JAF公認No.2018-6401]

開催日：9月8～9日 開催場所：スポーツランドSUGO西コース 格式：国内/準国内 主催：SSC [クラブ登録No.公認80401]

フォト/JAFスポーツ編集部 レポート/水谷一夫

三村、朝日両選手がOK初優勝でSUGOを制す!



雨となった第7戦ではヨコハマが十分にタイヤパフォーマンスを発揮した。

全 5大会・10戦で行われる全日本カート選手権OK部門の2018シリーズは、いよいよ大詰め。4回目のSUGO大会は、チャンピオン争いの行方を左右する重要なレースだ。さらに、ブリヂストン(BS)、ヨコハマ(YH)、ダンロップ(DL)の3メーカーが火花を散らすタイヤ開発競争のなり行きにも注目が集まる。

午前に行われた第7戦の決勝。グリッドはポールに野中誠太選手、2・3番グリッドに名取鉄平選手と佐々木大樹選手が着いていた。前日の予選ヒートでは、ドライコンディションの下でBSユーザーがトップ3を占めたのだ。

だが、朝から降り続く小雨が戦況を一変させた。各社が投入したレインタイヤは、YHとDLがこの日の路面コンディションとのマッチング

においてBSを上回り、決勝に先立って行われた公式練習ではYHとDLのユーザーが上位を占拠していた。

そしてレースはスタート直後から大きく動く。4番グリッドの三村壮太郎選手が1コーナーをトップで立ち上がり、8番グリッドの佐藤蓮選手が2番手へ。さらに12番グリッドの奥住慈英選手も3番手に浮上して、1周目にして

1.5戦 JAF 1.2 OK部門参戦で初の優勝を飾った三村壮太郎選手。



3.4.朝日ターボ選手も同じくOK部門で初優勝となった。



5 全日本カート選手権 FS-125部門
125/FP3部門 第5戦 JAFジュニアカート選手権



OK部門 Rd.7 / 5. 左から佐藤蓮選手、三村選手、奥住慈英選手。6. 佐藤選手が2位となりシリーズポイントをしっかりと稼いだ。7. 12番手スタートから一気に浮上した奥住慈英選手が3位入賞で、ヨコハマ勢が表彰台を独占した。

YHユーザーが1-2-3体制を築き上げた。

三村選手は折り返し点までにリードを5秒以上に広げると、あとはマシンをゴールへと運ぶことに徹して、独走のままフィニッシュ。今季のYH勢躍進の立役者でありながら勝利に手が届かずにいたベテランが、ついに1勝目を掴み取った。「ゴールした時は、まず安心しました。レインでは何が起きるか分からないので、勝つためのレースをしました」と三村選手。

佐藤選手は完調ではないマシンを巧みに走らせて2位となり、今季5度目のトップ3フィニッシュ。ルーキーの奥住選手は、DLを履く朝日ターボ選手の追い上げから辛くも逃げ切り、表彰台はYH勢の独占となった。

午後の第8戦決勝は一時雨が止み、コース上の水溜りがほぼ消えた中でのレースに。ここで光ったのは朝日選手だった。

セッティングを見直して万全の仕上がりでレースに臨んだ朝日選手は、5番グリッドから2周で2番手に上がると、ポールから先頭を行く三村選手を一発で仕留めてトップに立ち、圧巻のペースで28周を走り切った。待望のOK部門初優勝を果たした朝日選手は、「いつペースが急に落ちるか分からなかったので、できるだけ飛ばしました。けっこうドキドキしながらのレースでした」と笑顔をほころばせた。

三村選手は2連勝こそ逃したものの、2位で大量ポイントの獲得に成功。そして、ポディウ

8 OK部門 Rd.7 第5戦 JAFジュニアカート選手権



OK部門 Rd.8 / 8. 左から三村選手、朝日選手、綿谷浩明選手。9. 2戦連続の表彰台で最終戦のチャンピオン争いに望みを繋いだ2位の三村選手。10. 3位の綿谷選手は2007年の全日本ICAクラス以来の嬉しい表彰台。

ムでもっとも大きな拍手を受けたのが、3位のベテラン綿谷浩明選手だった。今季まだノーポイントのままだった綿谷選手は、BSユーザーの中でひとり快走を演じ、18番グリッドからの15台抜きに成功。全日本ではICA時代以来の11年ぶり、トップカテゴリでは初めての表彰台に立ち、大きな笑顔を咲かせた。

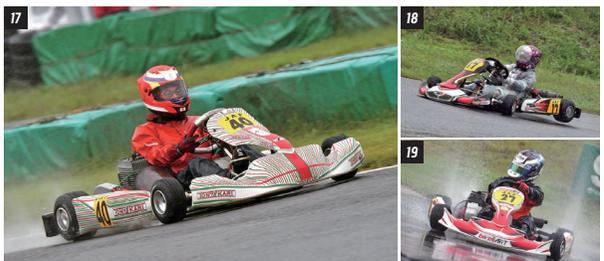
今季、残すは鈴鹿での第9戦/第10戦のみ。そこにポイントリーダーとして臨むのは、第8戦を4位で終え合計得点を199点とした佐藤選手だ。これに続くのは名取選手(172点)、三村選手(166点)、高橋悠之選手(157点)、佐々木選手(137点)。2018シリーズのチャンピオン候補はこの5名に絞られた。



FS-125部門 / 11. 「絶対に引かない気持ちで行きました」と語る大草りく選手は、第3戦の茂原大会以来の2勝目。12. 高口大将選手は3戦連続の2位フィニッシュとなった。13. 山口祐京選手が3位となり初表彰台に上った。



FP-3部門 / 14. ポールの蒲朋希選手は2周で後続を1秒以上引き離し、そのまま独走で今季3勝目を飾り、シリーズチャンピオンを確定。15. 2位は初参戦で快走を披露した開発政隆選手。16. 横田英直選手が3位入賞。



FP-Jr部門 / 17. スポット参戦の高橋英義選手は僅差で追いつくが鈴木斗輝選手を振り切って22周を走り抜き、デビューウィンを遂げた。18. 鈴木選手は0.9秒差の2位。19. 3位には単独走行の荒尾創大選手が入った。



FP-Jr Cadets部門 / 20. 決勝はポールの五十嵐文太郎選手の圧勝、ポイントリーダーとして最終戦に。21. 2位争いは岡澤圭吾選手が競り勝った。22. 佐藤選手は3位入賞でチャンピオン争いの望みを東西統一戦へ繋げた。